

<別紙1>

## 第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

株式会社フィールズ

② 施設・事業所情報

名称：たまプラーザもみじ保育園	種別：認可保育所	
代表者氏名：福田 誠	定員（利用人数）：120名 （利用人数：120名）	
所在地：〒225-0003 横浜市青葉区新石川3-17-1		
TEL：045-914-6640	ホームページ： <a href="https://momiji-aoba.or.jp/tamaplaza/">https://momiji-aoba.or.jp/tamaplaza/</a>	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日：平成13年5月1日		
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人 博愛福祉会		
職員数	常勤職員：17名 非常勤職員：29名	
専門職員	（専門職の名称） 名 保育士：38名	
	園長：1名 調理師：3名	
	主任：1名 調理員：3名	
施設・設備の概要	（居室数） （設備等）	
	保育室：6室 園庭：1ヶ所	
	トイレ：6ヶ所 駐車場兼あそび場：1ヶ所	
	調理室・厨房：1室 斜面あそび場：1ヶ所	
	事務室：1室	
	ゆうぎ室：1室	
	和室：1室	
	相談室：1室	
	サンルーム：1室	
	調乳室：1室	
沐浴室：1室		

③ 理念・基本方針

園は、「祖父母から父母へ、父母から私たちへ、私たちから子どもへ、子どもから孫へ、伝えよう命のバトンいつまでも」をスローガンに“命のリレーをサポートする”を理念とし、地域と共に歩み、当園の人的・物質的資源を活用しながら様々な体験や人との関わりを通して明るい未来を築く豊かな子どもを育てることを目指す。

保育・教育の提供にあたっては、子どもの最善の利益を考慮し、心身の調和のとれた人間形成を目指し、養護と教育を一体に行い、健康でかつ情緒が安定する環境のもとに、健康・人間関係・環境・言葉・表現の各領域で教育し、“生きる力”の基礎となる心情・意欲・態度を育むよう努める。

当園は、利用子どもの属する家庭及び地域との結び付きを重視した運営を行うとともにその支援を行い、都道府県、市町村、小学校、他の特定教育・保育施設等、地域子ども・子育て支援事業を行う者、他の児童福祉施設その他の学校又は保健医療サービス若しくは福祉サービスを提供する者との密接な連携に努める。

④ 施設・事業所の特徴的な取組

社会福祉法人 博愛福祉会 たまプラーザもみじ保育園は、平成13年5月1日に開所し、この地で20年以上保育を行っています。東急田園都市線たまプラーザ駅から徒歩5分の閑静な住宅地にあり、広い園庭と鉄筋コンクリート造りの建物で構成され、近隣には公園など散歩ができる場所もあり、恵まれた環境にあります。保育園の隣には國學院大學たまプラーザ校舎があります。定員は、0歳児～5歳児まで合計120人です。

運営法人である社会福祉法人 博愛福祉会は“いのちのリレーをサポートすること”を理念としています。

保育・教育にあたっては、子どもの最善の利益を考慮し、「地域と共に歩み、心身の調和のとれた人間形成」をめざし、養護と教育を一体に行い、健康でかつ情緒が安定する環境のもとに、健康・人間関係・環境・言葉・表現の各領域で教育し、“生きる力”の基礎となる心情・意欲・態度を育みます。0～2歳児には、子どもの情緒の安定を図り、子どもが主体的に基本的な生活習慣を身につけることができるように保育しています。3～5歳児には、主体的な遊びや生活の中で多くの友達との関われるように保育しています。また、外部講師による体操・スイミング・音楽・英語や年間行事など小学校就学にむけて、発達段階に応じた体験の機会をもうけています。

#### ⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和4年9月1日（契約日） ～ 令和6年4月23日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	1 回（ 2015 年度）

#### ⑥総評

◇特長や今後期待される点

1)子ども主体で成長できる環境を整えています

一人ひとりの子どもの状態に応じた保育を行うため担当児制を取り、職員は子どもが安心して自分の気持ちを表現できるように対応しています。0～2歳児では特定の大人との信頼関係を築き、3～5歳児もクラス担任の配置を行っています。子どもとの関係性が深くなり非言語でのコミュニケーションが可能となっています。子どもの主体性を尊重し、室内や園庭では自由に活動できるようにしています。広い園庭で思いきり遊び、雨天でも走り回り、子ども同士が関わり協力しながら遊べる環境を整えています。体操や音楽、英語などの機会を設けています。園庭開放や散歩、隣接する大学の学生からも話しかけがあり、成長に役立っています。

2)職員間の連携、及び経営層への相談しやすい環境があります

園では働きやすい職場として、職員間の連携とともに互いのコミュニケーションを大切にしています。園長は職員に、職員同士仲が良いだけでなく、お互いに必要なことを伝え合える力が必要なことを伝えていきます。職員会議、クラスミーティングなどの話し合いや報告、相談の機会を情報共有と理解を進めています。一人ひとりの保育力を高め、セルフマネジメントを可能とすることで余裕が生まれ、周囲への配慮も可能となるように取り組んでいます。職員も職員間の連携が良く助け合いができていますと評価しています。

3)安心安全の体制を作り、リスク対応を行っています

運営規定や職務分担表などにより、施設長を責任者としてリスクマネジメントを行っています。各種マニュアルを整備し、対応方法を掲示して周知しています。横浜市の通知や子どもにかかわる事件、事故のニュースなどを収集し、職員と協議しています。子どもの安心と安全を脅かすヒヤリハットを園庭や保育室別にファイルして共有

し確認しています。災害対応マニュアルは施設長用と職員用に整備して災害時に対応出来るようにしています。出席簿をもとに災害時の安否確認、災害伝言ダイヤルや災害伝言版で保護者に発信することを周知し、テストを実施しています。毎年、消防署員立ち会いで避難訓練、通報訓練を実施し、関係者に周知して保護者からも評価されています。

4)中・長期計画や事業計画を明文化し、取り組むべき課題・目標を共有することが期待されます

園長は、園を取り巻く事業環境や地域の状況を把握し、園として取り組むべき長期的な課題について認識しています。設備関係については中期計画書を作成しています。園の課題としての社会の変化に対する方向性や人手不足への改善計画などを明文化し、関係者と共有することが期待されます。中期計画にもとづいた単年度の目標や具体的施策を職員と共有することにより、組織全体で取り組み、成果につなげていくことが期待されます。

5)新しい地域支援の取組が期待されます

5歳児の年間指導計画に小学校や就学に関する項目を設け、その計画にもとづいた保育を実施しています。新クラス説明会や保護者懇談会などで小学校以降の子どもの生活について説明し、保護者の不安解消へ向けてアドバイスしています。卒園して小学生になっても相談できることを伝えていますが十分ではなく、小学低学年の支援に課題を感じています。また、横浜市「はじめてのおあずかり券」や一時保育の拡大、育児困難家庭への支援などに対して、保育園としてできることを検討しています。地域における社会資源として、今後の地域支援が期待されます。

#### ⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

第三者評価にあたっては、職員への負担を考慮していただき、調査員の方をはじめ、評価機関の方々には大変お世話になりました。

お子様の安心・安全に関しては、おおむね高評価をいただき、自分たちの保育に自信が持てました。一方で、長期的なビジョンに関しては、弱さがあることに気づきました。時代のニーズやコロナ渦などの環境の変化への対応に追われてしまい、長期的な計画がおろそかになっている現状に対し、今後は将来を予測し、備えていこうと思います。また、匿名で実施されたアンケート調査では、忌憚のないご意見を聞くことができました。多様な価値観やニーズに向き合い、子どもたちにとってよいことを1つ1つ行っていこうと思います。

#### ⑧第三者評価結果

別紙2のとおり